

平成29年4月11日

「軌跡」(進路の手びき) 巻頭言

志高く、未来を切り拓き、社会に貢献する人材に

校長 今井 智幸

今年度の本校の教育方針は、

- 1 教育活動全体を通じて、未来を切り拓く人間力や社会に貢献する人材を育成する。
- 2 キャリア教育の充実の下、志高く自己実現を果たそうとする態度を育成する。

である。「未来」には、生徒一人ひとりの未来、ここ由利本荘市、にかほ市の未来、ふるさと秋田の未来、そして21世紀という未来、という意味が込められている。「自己実現」には、単に就職、進学の内定や合格を勝ち取るということではなく、変化の激しいこれからの時代に主体的に向き合い、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手としての自己を実現するという意味が込められている。志を高く掲げ、生涯学び続け、自己を磨き、これからの社会に貢献する人材として活躍して欲しいという願いが込められている。いつの時代にも未来を担うのは若者である。

高校生にとって自己の進路達成は、卒業後に大きな希望や夢を抱いて新たなスタートを切るための重要なテーマである。そして、将来の自己実現にもつながる人生のテーマとも言える。公務員や民間企業への就職であれ、四年制大学への進学であれ、自己の人生をより豊かに生きるため、高校時代の三年間を見通しをもって計画的、主体的かつ着実に取り組むことは、高校生の責務と権利であろう。

現代は、さまざまな情報が溢れる情報社会である。コンピュータや通信ネットワークが職場や日常生活に深く入り込んだ現代にあっては、情報を有効に活用できる者は、生活や職業、社会において有利な恩恵を享受でき、情報技術の恩恵を受けられない人々は、社会から疎外されより困難な状況に追い込まれてしまうという。いわゆるデジタルデバイド(情報格差)が指摘されて久しい。

情報には、「インテリジェンス」と「インフォメーション」の二種類がある。単なる素材としての情報は、インフォメーション。一方、役に立つ、立たないとか、信憑性が高い、低いなど、何らかの評価が加えられた情報を、特にインテリジェンスという。アメリカ中央情報局、通称CIA(Central Intelligence Agency)には、このインテリジェンスが使われている。

この「軌跡」は、生徒の皆さんや保護者の方々、あるいは教職員にとっても、「進路」に関する必要な情報が掲載され、卒業生たちの貴重な具体的成功例も収められた、価値ある「インテリジェンス」としての情報である。本校の生徒一人ひとりが、第一志望の進路実現を図るための羅針盤となるものが、この「軌跡」である。卒業生が寄せてくれた文章の背後に、夢を実現するための主体性や計画性、さまざまな努力、工夫を、ぜひ感じ取って欲しい。そして、栄冠を勝ち取るために先輩に学び、後輩に勇気を与える具体的な取り組みと努力を継続して欲しい。そこに、本高生の確かな歩みと伝統が脈々と形作られるように。

志を高く掲げ、未来を切り拓き、これからの社会に貢献する人材としての基盤が培われる高校生活を、ぜひここ本荘高校で過ごして欲しい。将来、社会で活躍できる自分の基礎が高校時代に培われたと、懐かしく思い出されるような高校生活を送って欲しい。充実した<主体的な学び>の下、本高生の一人ひとりが自己の進路実現を果たすとともに、豊かな視野と人間力を養う高校生活を過ごすことを祈念して、巻頭言の挨拶といたします。